

12.平成16年度科学研究費補助金審査報告

昨年度は数学通信掲載には間に合いませんでしたが、本年度につきましては科学研究費補助金の審査を御報告します。ただし、この報告を書くにあたり、過去の数学通信の記事を参考にしました。また、科研費問題専門委員会を始め、多方面の方々の御協力を頂きました。本年度、数学分科で審査の対象となった細目は昨年と同じで

- 4 1 0 1 代数学
- 4 1 0 2 幾何学
- 4 1 0 3 数学一般
- 4 1 0 4 基礎解析学
- 4 1 0 5 大域解析学

の5細目です。種目も昨年通りで、高専・民間等への特別枠である奨励研究を除き、基盤研究(S, A, B, C), 若手研究(A, B)及び萌芽的研究です。審査は従来通り書面による第1段審査と合議による第2段審査とで行われています。審査委員数は昨年と同じで、第1段審査委員は各細目で12名、内6名は基盤研究(S, A, B)の審査を、3名は基盤研究(C), 3名は若手研究(A, B)と萌芽的研究の審査を行いました。また、第2段審査委員は4名が基盤研究(S, A, B)の審査を、他の4名が基盤研究(C), 奨励研究, 若手研究(A, B), 萌芽的研究の審査に当たりました。

以下、念のため審査の仕方について記します。細目を固定したとき、申請数が10以上の研究種目については、各研究課題に対し、当該課題の研究代表者や分担者である第1段審査委員の評点は除外した上で、第1段審査委員の審査結果の評点をt分布による補正を行ったスコアの平均点を考えます。たとえば基盤研究(B, C)や若手研究(B), 萌芽的研究については、この平均点に基づき、各細目毎に順番がつけられます。そのため、例えば3や4ばかりの評価をした場合あまり意味のないものになってしまいます。基盤(B, C), 若手(B), 萌芽の第2段審査では、これらの順番に基づき各細目毎に採択件数の目安の80%までの順位に入った申請は、特段の理由がない限り採

択することが要請され、残りの採択は原則として採択件数の目安の120%までに入った申請から行うように要請されます。

第2段審査委員は、各細目の80%から120%までの順位に入った申請からどれを採択するかを、第1段審査委員の記したコメントや収集した資料等を参考に決定します。第一段審査では、大学間のバランスや研究費の受給に関する研究者間のバランス等を判断の要素に加えることを禁じており、計画調書の内容を審査員独自の責任と判断において評価を行うべきものとされます。一方、第二段審査では総合的な見地から評価することが要求されます。また、基盤研究(S, A)については、細目によっては申請数が10未満ですので、最終的には、第2段審査委員4名の合議で採択を決めます。つまり申請数がこのように少ない細目では、細目単独では審査できないので、他の細目とも併せて審査せざるを得ないのです。ところで、t分布による補正を行ったスコアの平均点は、同一細目内でのみ意味をもつものですから、細目の枠を越えて申請を比較する場合は、むしろ第1段審査委員6名の素点の総計を重視して審査することになります。いずれにしても、第1段審査の比重は大変重いもので、第2段審査での順位の逆転は、理由付けなくして行われることはありません。

なお、科研費審査に関する情報を詳しく知るには、日本学術振興会のホームページ <http://www.jsps.go.jp/>

にアクセスされて、科学研究費補助金のトップページから「研究種目」「スケジュール」「配分審査」「研究成果の公開」等の項を見られるのが一番良いと思われます。

本年度も、補助金の各分科への配分は、申請件数と申請金額に1/2ずつ比例してきめられます。参考のため最近3年間の申請件数の推移を表にすると次のようになります。

	16年度	15年度	14年度
基盤研究(S)	7	5	4
基盤研究(A)	27	28	40
基盤研究(B)	156	176	172

基盤研究(C)	714	842	847
萌芽的研究	213	207	226
若手研究(A)	1	3	13
若手研究(B)	253	314	339

今年度は基盤研究(S)と萌芽的研究の申請件数はやや増加しましたが、その他の研究種目では申請件数がいくらか減っています。

最近の科研費について言えば、基盤研究(A)と基盤研究(B)の採択率には差が殆どありません。むしろ、「数学」という分科に限って言えば、基盤研究(A)の採択率の方が基盤研究(B)の採択率より良いというデータが出ています。基盤研究(A)の申請数がごく少数の細目もありますが、むしろ積極的に多くの種目に意欲的な計画を申請するよう、引き続き皆様のご協力をお願いします。最後に今年度の採択状況の概略を記しておきます。()内は交付予定金額で、単位は千円です。

基盤研究(S)

新規申請 7件 新規採択件数の目安
2件(29,200)

基盤研究(A)

新規申請 27件 新規採択件数の目安
9件(69,900)

基盤研究(B)

新規申請 156件 新規採択件数の目安
4101 12件(47,700)
4102 8件(26,300)
4103 9件(37,400)
4104 14件(48,400)
4105 7件(27,100)

基盤研究(C)

新規申請 714件 新規採択件数の目安
4101 46件(54,400)
4102 40件(46,800)
4103 38件(46,500)
4104 44件(53,400)
4105 26件(28,700)

萌芽的研究

新規申請 213件 新規採択件数の目安
4101 8件(8,700)
4102 7件(8,300)

若手研究(B)

新規申請 253件 新規採択件数の目安
4101 24件(23,800)
4102 17件(18,300)
4103 26件(30,000)
4104 15件(15,800)
4105 17件(19,700)

なお、奨励研究は2件(2,900)が採択された一方、若手研究(A)については、申請件数が少なく、採択されたものではありませんでした。

(科研費問題専門委員 満淵俊樹記)